

## 読者へ

本書は、内閣府経済社会総合研究所による問題提起に基づき、現代日本を代表する政治・経済学者、エコノミストの多くの参加を得て、80年後半のバブルの発生と崩壊、およびその後のデフレをともなう長期停滞の期間について行った研究プロジェクトの成果をまとめたシリーズの第1巻である。

われわれの研究が対象としている期間における日本の経済政策、各種の構造改革などの一連の流れは、わが国の経済史のみならず、諸外国の歴史においても稀な政策的試行錯誤の歴史であり、貴重な教訓を含んでいる。この間の経済動向、経済政策を史実に則して正確に記述するとともに、点検・評価し、反省・教訓を後世に伝えることにより、今後の日本経済および経済政策運営に貢献することが本シリーズの目的である。

本巻は、そのなかで「マクロ経済、TFP、産業構造、IT」の分野を取り扱っており、同分野の学識経験者の議論を経て論題を設定した後、各論題に造詣の深い専門の研究者に分析・執筆頂いた成果を編纂した。

世界経済は、2008年秋頃以降、金融危機に見舞われ、その影響から厳しい不況が進行する状況にある。

本書、さらには本研究プロジェクトの成果が、わが国の経験と教訓を改めて考察する機会となり、今日の状況を打開していく上での一助となれば幸いである。また、バブル崩壊を未然に防止したり、その後の経済停滞を最小限に止める上で必要な政策対応等の議論に貢献することができれば、望外の喜びである。

最後に、本プロジェクトにご協力・ご執筆頂いた、全巻で都合100人を上回る学識経験者・専門研究者のご協力・ご支援に対し、この場をお借りして改めて感謝の意を表したい。

平成21年7月

バブル／デフレ期の日本経済と経済政策研究会  
主査 香西 泰